

教科(科目)	国語(現代の国語)	単位数	2単位	学年(コース)	1年次
使用教科書	第一学習社『高等学校 新編 現代の国語』				
副教材等	浜島書店『常用漢字の1・2トライ』、浜島書店『高校国語への入門』				

1 グラデュエーション及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①本校の特色及び取組を生かした高大接続、教育課程の編成、授業改善により基礎学力の向上を図るとともに、さらなるキャリア教育の実践を推進します。</p> <p>②規律ある学校生活の中で基本的な生活習慣を確立し、時代の変化に対応できる能力の向上を図ります。</p> <p>③生徒一人一人の良さや可能性を伸ばし、自立した社会生活を営むことができる力を育てるとともに、生徒の自己実現を図ります。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>総合学科の本校では多様な科目開設という特徴を生かした教育活動を展開し、「産業社会と人間」を基本として3年間を見通したキャリア教育を充実させます。また、地域と連携した実習や就労体験等、地域の教育資源を活用して教養、人間性及び社会性を育てます。</p> <p>①多様な進路希望に対応する選択科目を設け、資質、能力の育成に相乗的であるように教科等横断的な視点に立った指導であること。</p> <p>②学習の継続性に配慮し、主体的・対話的で深い学びが実践できるような基礎基本を重視した教育課程を編成する。</p> <p>③ICTの活用も含め、生徒個々が自身の進路希望を意識した学習態度の早期醸成と高揚につながられるものであること。</p> <p>④学校設定科目「キャリア実習」をはじめ、科目の設定にあたり地域産業、地域の人材を生かした授業展開ができること。</p>

2 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>①基礎的な言語事項の習得を重視し、語彙力の向上と、知識を活用する力を高めることを目指します。</p> <p>②多様な文章に触れることで、視野を広げ、考え方を豊かにし、読解力や記述力の習得を目指します。</p> <p>③論理的な文章を読むことで読解力を養い、順序立てて意見を伝え合ったり、客観的な視点から意見を述べたりすることのできる表現力の習得を目指します。</p> <p>④論理的思考力を養い、他教科と関連づけながら学問を深化させることを目指します。</p> <p>⑤言語活動を通して、相手に自分の意見を伝えたり相手の意見を尊重したりすることのできる態度を養い、実社会において言葉を使って主体的かつ積極的に他者とコミュニケーションを図ることのできる態度を育てます。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p>	<p>言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</p>

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ ・小テストの分析 ・定期考査の分析 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・授業中の音読の観察 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・プレゼンテーションや発表、討論への取組の観察 ・授業中の発言内容や音読の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・プレゼンテーションや発表、討論への取組、また授業中の発言の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの取組状況の確認 などから、総合的に評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	筆者が体験から学んだことを理解し、筆者の主張について考えを深める	4「書くこと」	辻信一「ナマケモノになる」	・比喩の種類とその効果を捉える。 ・ナマケモノの生態から考える競争社会での生き方について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・ナマケモノの他の種類について積極的に調べ、「ミツユビ・ナマケモノ」と対比してまとめようとしている。	4	行動の確認 記述の点検 記述の点検
4	伝わりやすい表現方法を理解する	2「話すことと聞くこと」	・話し方の工夫	・話し言葉と書き言葉の特徴や、相手・目的・場面に応じた言葉遣いを理解する。	2	行動の観察
5	表記・表現の基本を理解する	2「書くこと」	・書き方の基礎 レッスン	・表記・表現の基本ルールや接続表現の種類、比喩などの表現技法を理解する。	2	記述の点検
5	音声と意味との関係から、言語一般及びオノマトペの機能的特徴を理解し、音としての言葉への興味を広げる	4「話すことと聞くこと」	清水由美「言葉の海のオノマトペ」	・言葉には認識や思考を支えるはたらきがあることを理解する。 ・わかりやすさに配慮した表現について学習し、活用する。 ・オノマトペを使った単文を作り、筆者の主張を検証して報告する。	4	行動の確認 行動の確認 行動の観察
6	説得力を意識した表現の仕方を理解する	3「話すことと聞くこと」	・待遇表現 ・論理的な表現	・敬語表現が選択される視点を理解する。 ・主張と理由の妥当性について理解し、課題に沿って話し合う。	3	行動の観察 行動の確認
6	分かりやすい説明を実践する	2「書くこと」	・身近な製品の取り扱い説明書を作成する	・情報を的確に説明する方法を理解する。 ・教科書の例を参考に、説明や表現の仕方を工夫して、身近な製品の取扱説明書を書く。	2	行動の観察 記述の確認
7	対比構造を用いた論理の展開について理解する	4「読むこと」	高階秀爾「「間」の感覚」	・事柄が的確に伝わる工夫について学ぶ。 ・文章に含まれている情報を相互に関連づけながら、文章の構造や論理の展開を的確に捉え、要旨をまとめる。	4	行動の確認 記述の確認

7	情報の探索と選択を実践し、引用を適切に活用する	3「話すことと聞くこと」	・情報の探索と選択 ・情報源の明示	・情報の信頼性や妥当性の吟味の仕方を理解する。 ・引用の目的と効用、具体的な方法を理解する。	3	行動の確認 記述の点検
8 9	情報の適切な伝達方法、書き方を習得する	4「書くこと」	・実用的な手紙の書き方 ・地域の魅力を紹介する	・必要な情報や資料を収集・整理し、分かりやすい紹介文を書くために活用する方法を理解する。 ・教科書の例を参考に、説明や表現の仕方を工夫して、依頼文や案内文を書く。	3	行動の確認 記述の確認
9	人生の岐路となった筆者の旅を追体験することにより、世界には様々な出会いがあることを知る	6「書くこと」	星野道夫 「十六歳のとき」	・比喩表現について理解し、文脈に沿って意味を説明する。 ・段落と段落の関係を理解し、本文の構成を捉える。 ・個別の事例と筆者の主張との関連を捉える。 ・人生の岐路について述べた文書を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・筆者の事績を調べ、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して論述する。	6	行動の確認 行動の観察 行動の確認 記述の確認 記述の分析
10	筆者の考えを理解し、ロボットと人との間に生まれた関係性について考えを深める	6「読むこと」	岡田美智男 「「弱いロボット」の誕生」	・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 ・動画と本文を比較して、わかったことを説明する。 ・ロボットと人間との関係性について考えを深め、表現を工夫して自分の考えを論述する。	6	行動の確認 行動の確認 記述の確認
10 11	具体例を多用した論理の展開を理解する	5「読むこと」	小浜逸郎「日本語は世界をこのように捉える」	・具体例を示しながら展開する評論を読み、学習課題に沿って論理の展開を分析する。 ・論理の展開を分析し、筆者の主張をまとめる。	5	行動の確認 記述の点検
11	他者の意見を聴き取り、評価する	4「話すことと聞くこと」	・スピーチで自分を伝える ・相手に伝わる案内をする	・他の人のスピーチを聞き、評価する方法を学ぶ。 ・互いに来場者役や評価者を務め、評価の観点に沿って評価する。	4	行動の観察 記述の確認
11	報告文の書き方を理解し、実践し、評価する	2「書くこと」	・自校の生徒の生活実態を調査する	・目的に応じてテーマを決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味する。 ・報告文を互いに批評し合う。	2	行動の観察 行動の確認
12	複数の文章を読み比べて必要な情報を読み取り、まとめる	2「書くこと」	・法律の改正に関わる文章を読み比べる	・自分の考えや事柄が的確に伝わるように、表現の仕方を工夫する方法を学ぶ。 ・異なる形式で書かれた複数の文章を読み、理解したことをまとめる。	2	行動の観察 記述の点検

12	仮説を積み上げて結論を導く論理の展開を理解する	5「読むこと」	森岡正博「AIは哲学できるか」	・帰納法で推論する評論を読み、論理の展開を分析する。 ・文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。	5	行動の観察 記述の確認
1	歴史について理解し、筆者が提示する人類と生態系のあり方について考察する	6「書くこと」	鷺谷いづみ「イースター島にはなぜ森がないのか」	・個別の事例を一般化する文章の効果的な組み立て方を理解し、課題に即して解釈を深める。 ・根拠の示し方や説明の仕方を工夫しながら、自分の考えを伝える。 ・調べたことを整理して説明資料にまとめる。	6	行動の観察 行動の確認 記述の分析
2	論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら話し合いを実践する	4「話すこと・聞くこと」	・理想の修学旅行をプレゼンする ・合意形成のための話し合いを行う	・情報を大勢の聞き手に分かりやすく説明するプレゼンテーションの方法を理解し、実践する。 ・話し合いの進め方のルールを理解する。	4	行動の分析 行動の観察
3	意見文の書き方を理解し、実践し、評価する	2「書くこと」	・社会に対する意見文を書く	・説明や表現の仕方を工夫して、意見文を書いて批評し合い、批評を踏まえて論理の展開や表現の仕方を工夫する。	3	記述の分析

計70時間(50分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 20 時間	B「書くこと」 30 時間	C「読むこと」 20 時間
-----------------	-----------------------	------------------	------------------

7 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に副教材を使って漢字や意味を問う小テストを行います。範囲の取り組み状況の確認のため、小テスト時に漢字のテキストを提出してください。 ・各単元のまとめに確認ワークシートに取り組み、提出してください。 ・単元の内容に応じて、レポートの作成やプレゼンテーション資料等の作成を行い、提出してください。 ・単元の内容に応じて、意見文等の記述に取り組み、提出してください。 ・単元の内容に応じて、作成したレポートや意見文を使って話し合いやディスカッション、プレゼンテーションを行います。その際に互いの評価表等を作成し、提出してください。 ・授業の内容に応じて、ワークシートや課題に取り組みます。 ・長期休業中の課題は別途指示します。
--

8 担当者からの一言

<p>「現代の国語」は、基本的な漢字や語彙力を身に付けるとともに、思考の基盤となる知識を論理的に活用する力の習得を目指します。そのために、発表や話し合い、レポートの作成など、様々な活動を行います。一人一人が積極的に、そして主体的に授業に臨み、能動的で活発な意見交換ができる授業をクラス全体で一緒に作っていきたいと思います。</p> <p>また、言語は思考の根幹であり、国語は全ての教科の基礎となるものです。言語力を養うことで他教科の理解度が高まり、また言語を使って様々な教科を学ぶことで、言語力の向上に繋がります。全ての学問を関連的に捉えられるように学習していきましょう。</p>
--